

学位論文審査の要旨

学位申請者	角田 千枝 生活工学共同専攻 2016年度生		論文題目	一般成人女性のためのヘルメット・マスク一体型防災服の開発
審査委員	主 査:	太田 裕治 教授	インターネット公表	学位論文の全文公表の可否 : 否
	副 査:	近藤 恵 准教授		「否」の場合の理由
	副 査:	才脇 直樹 教授 (奈良女子大学)		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	仲西 正 教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	元岡 展久 准教授		<input type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (生活工学)	(Ph. D. in Textiles and Clothing Science)		<input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
				<input checked="" type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

本論文は、災害発生により避難の必要が生じた場合に備え、一次避難時およびその後の避難生活において、一般成人女性のために有用な防災服を設計し提案するものである。避難時に役立つような物品についての情報は、過去の災害経験が活かされた結果、一般にも広く知られるようになってきたが、未だ充実しているとは言えず、特に「衣」については意識が低いのが現状である。そこで申請者は、まず、近年発災した被災地および避難所の現状を調査し、問題点を詳細に分析した。この調査結果より、呼吸機能に及ぼす悪影響について深刻な問題が放置されていることに着眼し、防じんの重要性を訴え、手軽に防護できるマスク一体型防災服を考案することとした。デザイン設計にあたっては、口吻部からの粉じん漏れ率の検証実験を行い、一定程度の防じん機能を果たせるよう工夫した。また、日本人成人女性の多くに適合するよう、様々な頭顔部形状の被験者を用い、装着時の動作に伴うオリジナル項目による人体計測を実施することで、想定されるあらゆる動作に対して適応するようにした。さらに、頭部を防護するヘルメットとの同時装着を促すようヘルメット・マスク一体型のデザインとするとともに、フード部についても同様に独自の人体計測値を取り入れた。このようにして設計された最終サンプルについて装着実験を行い、脱着時間や使用感などについて評価を行った。

最終的に提案された防災服は、十分な調査と研究の結果に基づいて設計され、機能性と実用性を兼ね備えた独創性のあるデザインとなっている。また、評価実験を通じて本防災服の有用性を確認するとともに、今後の実用化に向けた展開についても確認がなされている。なお、本研究の成果の一部は既に服飾文化学会誌に掲載されている。研究を通じて、現代社会において、重要でありながら軽視されている問題点を見出し、対応策となり得る防災服を設計し提案することにより、災害時に人々がより安全に避難できる可能性を拡大したことは、高く評価できると考えられ、今後の多大な社会貢献につながるものと期待される。

以上の点から、本審査委員会は、本論文をお茶の水女子大学人間文化創成科学研究科の博士(生活工学)(Ph.D.in Textiles and Clothing Science)の学位を授与するに相応しいと判断した。